

ワークポジショニング用器具

取扱説明書

要保存 必ずお読みください。

この度は、ワークポジショニング用器具をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この製品は、柱上、鉄塔などにおける電気工事、通信線路工事その他の高所作業において、作業者の身体を安定して保持するもので「墜落制止用器具の規格」適合品ではありません。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をご理解ください。

特に▲危険・△警告・△注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。あわせてこの取扱説明書は大切に保管していただき、紛失された場合には当社もしくはサンコー株式会社にご請求ください。

※但し、当製品に「墜落制止用器具の規格」に適合したランヤードを組み合わせた場合は「墜落制止用器具の規格」適合品となります。

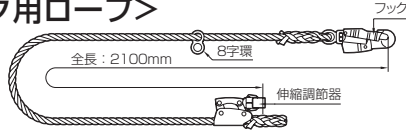
目次

1. 各部の名称	1～2
2. 使用条件	3
3. 使用前点検	3
4. 装着方法	4～6
5. 使用方法	7～10
6. 保守・保管	10
7. 点検・廃棄	11～12
8. 部品交換	13
9. 交換の目安	13
10. 各部の強さ	14
お客様相談窓口.....	15

1 各部の名称 (図は一例を示す)

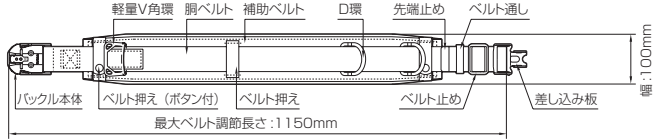
<ワークポジショニング用ロープ>

WP-200FCS

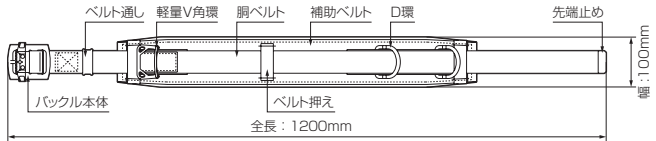


<ベルト本体>

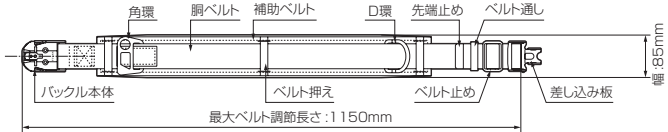
WP-98DS (軽量・ワンタッチバックル付)



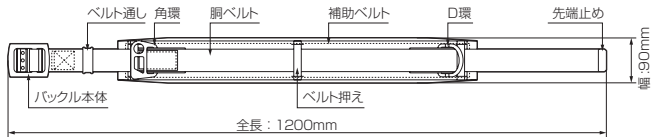
WP-96DS (軽量タイプ)



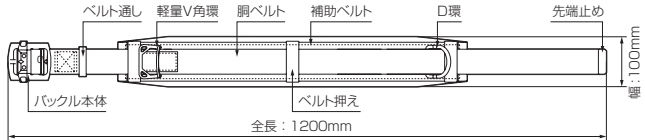
WP-97DS (ワンタッチバックル付)



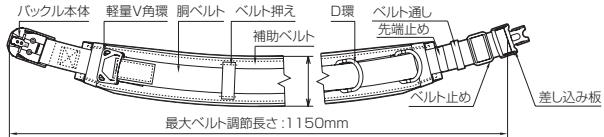
WP-55DS



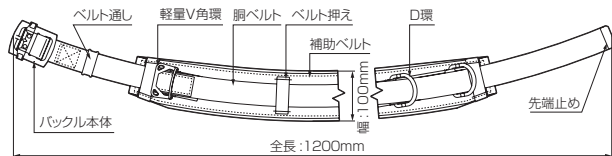
WP-95DS (軽量タイプ)



WP-R98DS (軽量・カーブタイプ/ワンタッチバックル付)

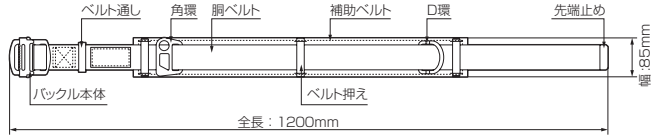


WP-R96DS (軽量・カーブタイプ)

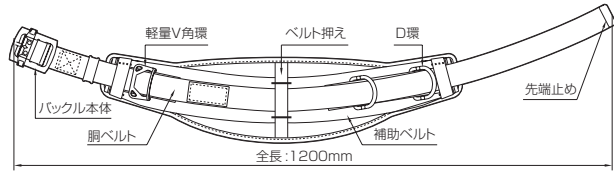


■ 各部の名称(つづき)

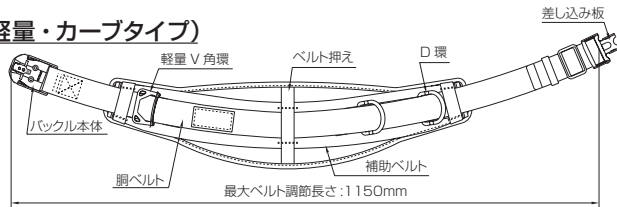
WP-45DS



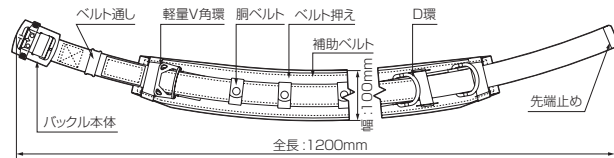
WP-R300DS (軽量・カーブタイプ) / WP-R400DS (軽量・カーブ・メッシュタイプ)



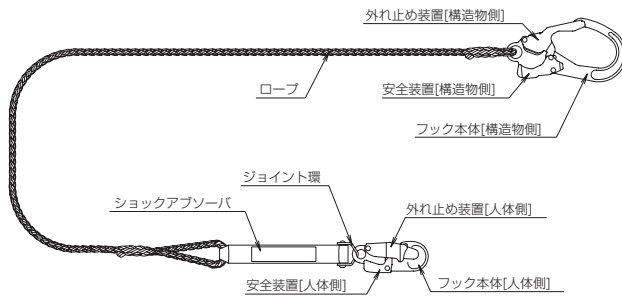
WP-R320DS (軽量・カーブタイプ)



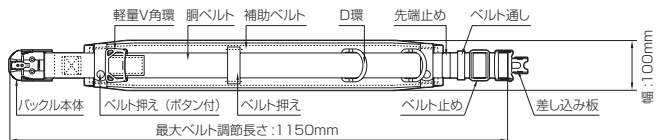
WP-R500DS



墜落制止用器具として使用する場合の一例

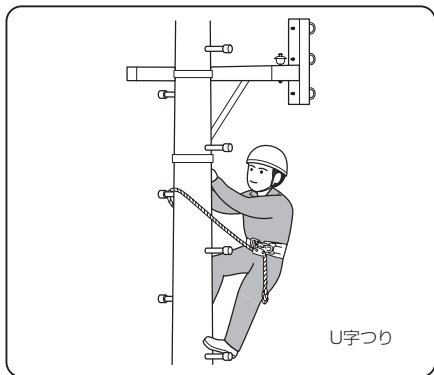


<ベルト本体>



2 使用条件

当製品はU字つり専用とする。



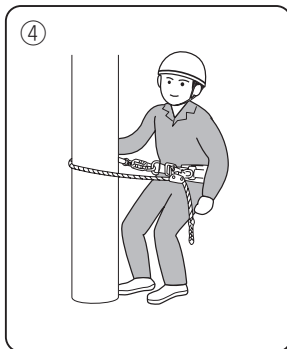
警告

誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

作業者の身体の保持以外の目的で使用しない。

3 使用前点検

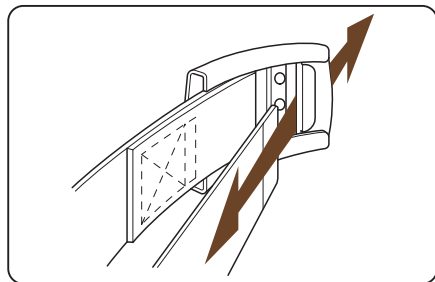
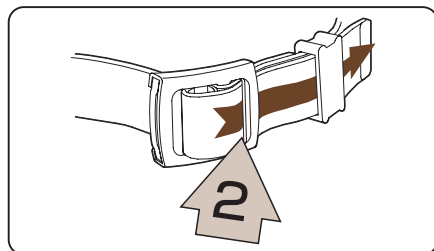
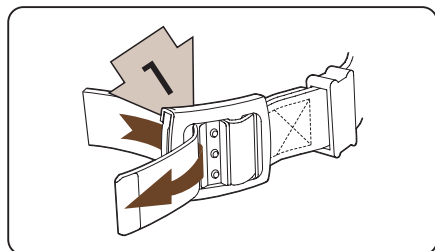
- ①装着前にこの取扱説明書をよく読み、正しい使用方法を確認する。
- ②装着前に必ず、この取扱説明書の【7 点検・廃棄】の内容に従って各部に異常がないか点検する。
- ③新しい製品を使用する前に、使用開始年月ラベル(【9 交換の目安】参照)に必要事項を必ず記入する。
- ④装着後、地上においてU字つり状態で体重をかけ、各部に異常がないか点検する。



4 装着方法

[スライドバックル]

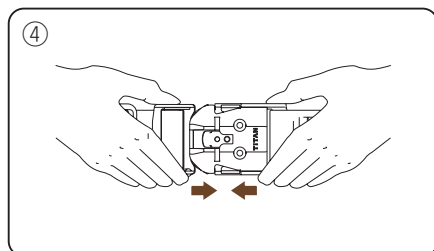
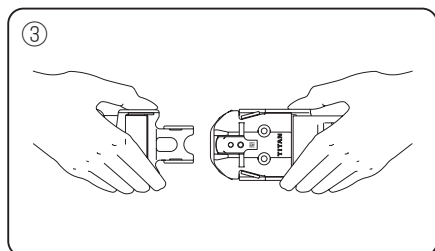
ワークポジショニング用器具の補助・胴ベルトは、角環が身体の左側、D環が右側にくるようにして腰骨のところに装着し、バックルに刻印された \hat{A} 、 \hat{B} の順に胴ベルトを通し確実に締める。余った胴ベルトの端は必ずベルト通しに通す。
※ワンタッチバックル付胴ベルト型ワークポジショニング用器具をご購入の場合は、別添付の「ワンタッチバックル取扱説明書」をお読みください。



※バックルへの胴ベルトの出し入れは、バックルに先端止め金具になるべく当たらないように、バックルに対して胴ベルトを平行気味にして出し入れする。

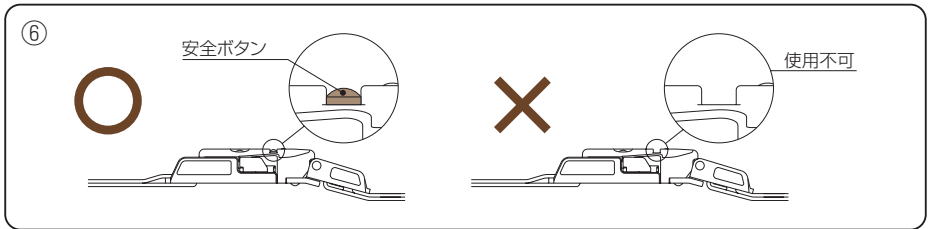
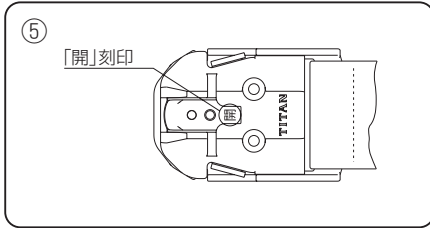
[ワンタッチバックル]

- ①あらかじめ胴ベルトの長さを、身体にあわせて調節しておく。
- ②バックル本体が左手側、差し込み板が右手側、D環の位置が身体の真横かそれより後方に来るようにして、胴ベルトを腰骨のところに装着する。
- ③バックル本体及び差し込み板のクロスパンチ部分を持つ。
- ④「カチッ」という音がするまで差し込み板をバックル本体部に挿入する。



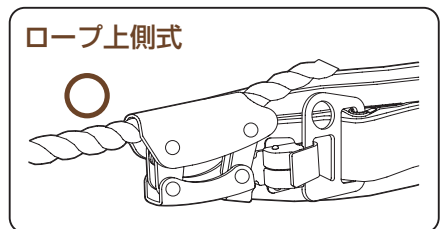
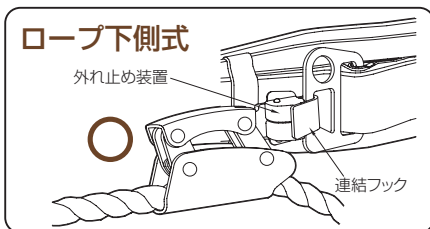
4 装着方法(つづき)

- ⑤スライド板の「開」刻印が見えている場合は連結されていないのでそのまま使用しない。
- ⑥安全ボタンが上昇して安全な状態が確保されていることを目で見えて、かつ触れてみて確認する。
- ⑦バックル本体と差し込み板を互いに引っ張って抜けないことを必ず確認してから使用する。



【伸縮調節器】

伸縮調節器は連結フックの外れ止め装置が外側になるようにして角環に掛け、ベルトの端や作業服が巻き込まれていないか、外れ止め装置が完全に閉じているかを確認する。



(ロープ下側を上側式の方法で、ロープ上側式を下側式の方法で角環に取り付けると、6ページ⚠警告❷の違った掛け方になりますので、しないでください。)

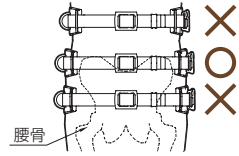
4 装着方法(つづき)



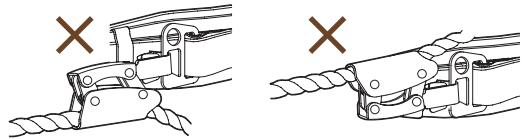
警告

誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

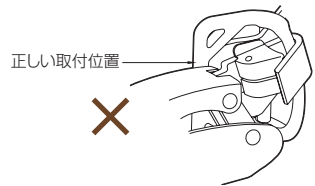
- 1 胴ベルトは、正しい方法でバックルに通し、腰骨のところで確実に締める。締める位置が上や下にずれると、U字つり作業時に抜け落ちたり、内臓が圧迫されるなど種々の障害が起こるおそれがあるので、特に注意する。



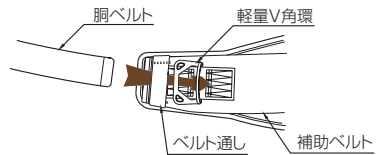
- 2 伸縮調節器を角環に取り付ける際に、連結フックの外れ止め装置を内側にして取り付けたら、ベルト押えや胴ベルトの端・作業服が巻き込まれていた場合などに開口して、角環からはずれる可能性があるため、絶対にしない。



- 3 右図のような角環の付いた製品を使用される場合は、右図のような伸縮調節器の取り付け方はしない。



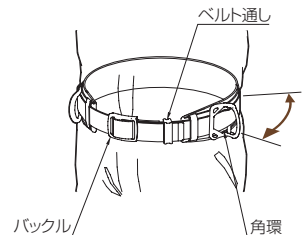
- 4 補助ベルトから胴ベルトを抜いた際は、必ず、全てのベルトに通し、そして角環及びD環に胴ベルトを通してください。



注意

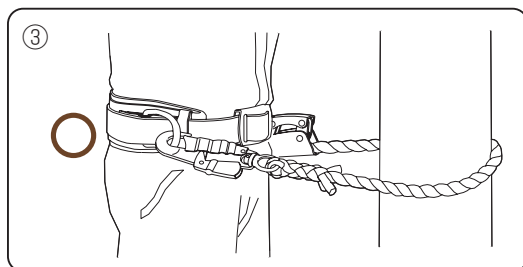
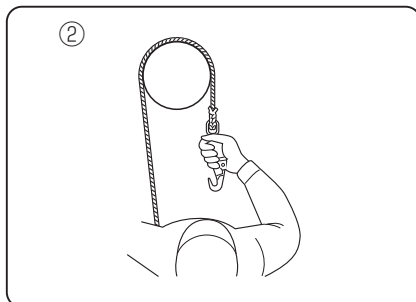
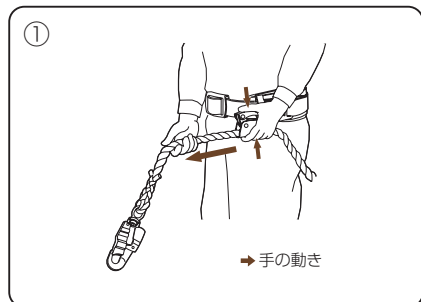
安全にお使いいただくためにお守りください

- 1 角環の位置は、身体の真横より前方に来ないようにする。
- 2 使用者のウエストサイズ(胴回りの大きさ)が大きいため、胴ベルトを正しくバックルに通した後のベルト余長がベルト通しに届かない場合は、そのまま使用してはならない。(スタンダード品よりも寸法が長い胴ベルトを購入・ご使用ください)

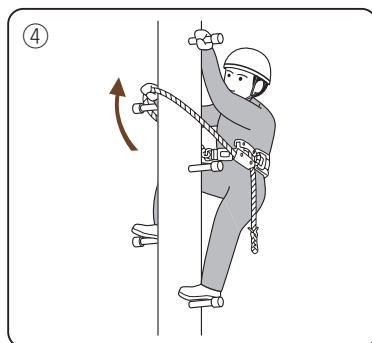


5 使用方法

- ①左手で伸縮調節器を握り、右手でロープを引き出す。(左きき用製品は、右手で握り左手で引き出す。)
- ②ロープを構造物等の後側にまわして、ロープ先端部のフックを、外れ止め装置と安全装置を同時に押えて開く。
- ③フックを、フック開口部が内側になるようにしてワークポジショニング用器具のD環に掛けて閉じた後、ベルトの端や作業服等が巻き込まれていないか、外れ止め装置及び安全装置が完全に閉まっているかを確認する。



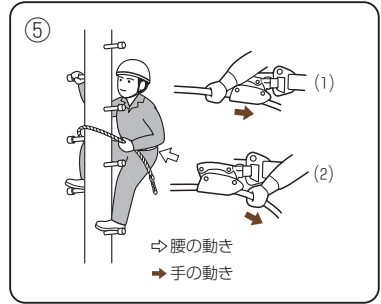
- ④U字つり状態で昇降するときは、ロープを昇降上必要最小限の長さに調節し、ロープが滑り落ちないように絶えずステップボルト等の突起物の上方にロープを掛けて、昇降する。



④ 使用方法(つづき)

⑤ U字つり状態でロープを短くするときは、下の(1)、(2)のいずれかの方法で行う。

- (1) 右手でステップボルト等を握って身体を支え、左手でロープを伸縮調節器にまっすぐに押し込むようにしながら、左腰を構造物に近づけるようにする。
- (2) 右手でステップボルト等を握って身体を支え、伸縮調節器後方のロープを引っ張り出すようにしながら、左腰を構造物に近づけるようにする。



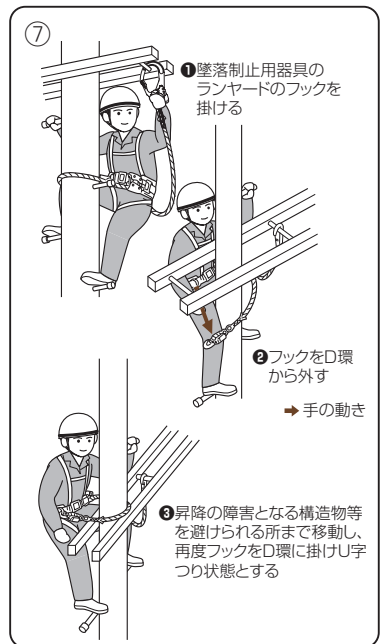
⑥ U字つり状態でロープを長くするときは、右手でステップボルト等を握って身体を支え、左手で伸縮調節器を握り、左腰を構造物から遠ざけるようにする。



⑦ U字つり状態で昇降するとき、他の構造物が障害になり一時的にワークポジショニング用ロープのフックを掛け替える必要が生じた場合、墜落を制止するためにフックをD環から外す前に、バックアップ用で、墜落制止用器具のランヤードのフックを必ず適当な取付対象物に掛ける。

※フック掛け替え時の安全を確保する為にフルハーネスもしくは移動用ロープを併用してください。

⑧ 徐々に体重をかけ、異常がないことを確認してから、手を離し作業を行う。



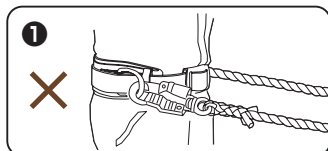
5 使用方法(つづき)

⚠ 危険 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、絶対にやめてください

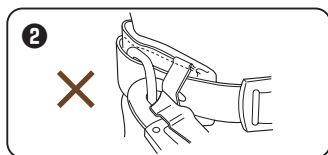
ロープが切断されるおそれがあるので、U字つり使用時に鋼材等の鋭い角にロープが当たらないようにし、やむをえない場合は布等を当てるなどして、直接触れないようにする。

⚠ 警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

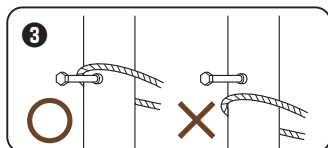
❶ フックをD環に取り付ける際に、フック開口部が外側になるように掛けると、外部からの力によって開口しD環から外れる可能性があるため、絶対にしない。



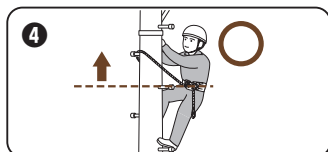
❷ フック・伸縮調節器をD環・角環に取り付けるときに、ベルト押さえや胴ベルトの端・作業服等が巻き込まれないようにする。



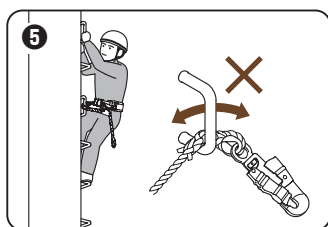
❸ ロープは突起物等があり滑り落ちない箇所にU字つりする。



❹ 電柱や構造物などにU字つりしたロープの位置は、装着したワークポジショニング器具のベルトの位置より高くなるようにする。



❺ U字つり状態で作業又は昇降するとき、フック側のさつま編み込み部を対象物に対して左右に「しごく」と編み込み部が抜ける恐れがあるので、そのような動きはしない。



5 使用方法(つづき)

- ⑥溶接の火花・強い酸やアルカリ・油・その他高温高熱の物体や化学薬品類が製品にかかったり触れたりしないようにする。
- ⑦ロープは結んだりくくりつけたりして使用しない。
- ⑧金具の衝突・静電気による火花で爆発・引火する可能性があるので、ガスや粉塵の濃度が高い場所では使用しない。



注意

安全にお使いいただくためにお守りください

- ①ロープを引きずらない。
- ②ロープをねじって使用しない。
- ③シノウ等工具類はベルトの内側に直接差し込まない。
- ④ロープは水分を含むと電気をよく通すので、特に雨の日などは感電に注意する。

6 保守・保管

-
- ① ベルト・ロープの汚れは、ぬるま湯または中性洗剤を使って洗い、陰干しする。
-
- ② ベルト、ロープに塗料が付いた場合は、布等でふきとる。溶剤を使ってはならない。
-
- ③ ベルト、ロープが水などにぬれた場合は、屋内の常温で風通しがよい場所で自然乾燥させる。(ストーブ・熱風等による強制乾燥は、ベルト・ロープ等が変形したり、焼き傷がついたりするおそれがありますので、絶対にしないでください。)
-
- ④ 金具類が水などにぬれた場合は、乾いた布でよくふきとった後さび止めの油をうすく塗る。
-
- ⑤ 金具類の可動部(バックル・フック)は定期的に注油する。砂や泥が付いている場合はよく掃除して取り除く。
-
- ⑥ 当製品は、直射日光や火気・放熱体・腐食性物質を避け、屋内の常温で風通しがよく清潔な場所に保管する。
-
- ⑦ 子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないよう注意する。
-
- ⑧ 新品の製品でも、使用せずに長期保存する場合は、必ず内装箱または袋に入れた状態で、かつ上の⑥、⑦の内容に気を付けて、良好な状態で保管する。
-

7 点検・廃棄



警告

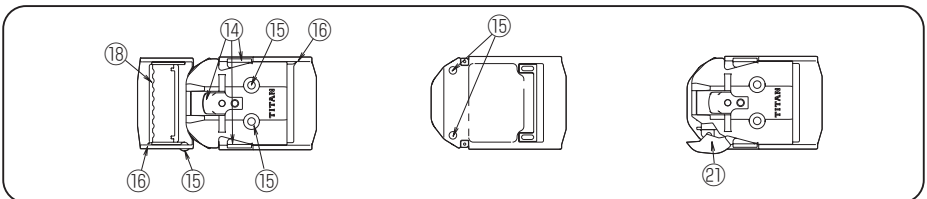
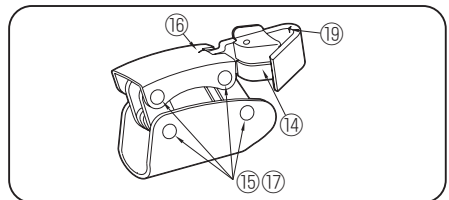
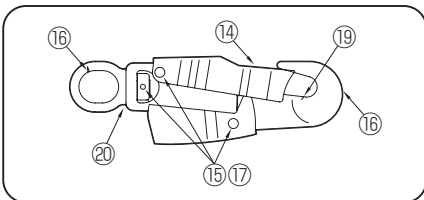
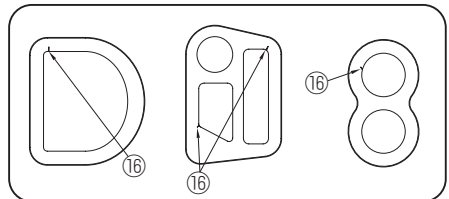
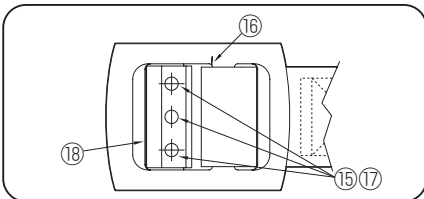
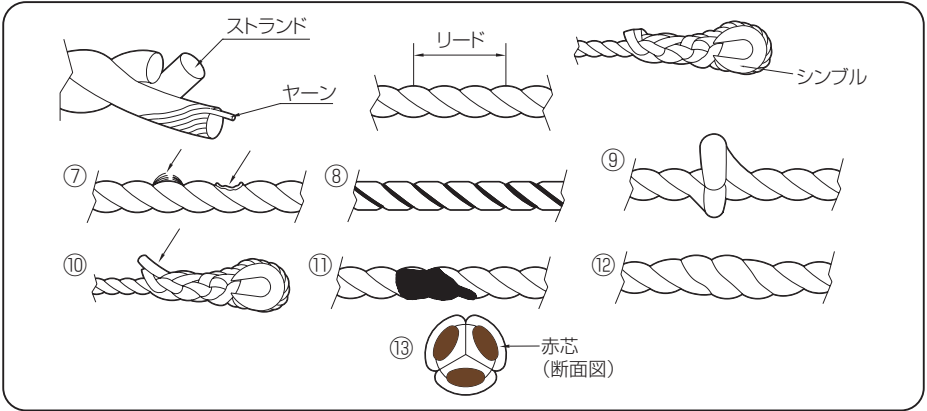
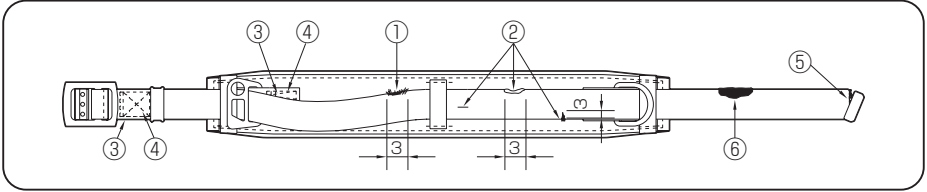
誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- ①製品は使用前及び定期的に点検し、下の製品点検チェックリストの廃棄基準に当たる部分があれば、廃棄して新しいものと取り替えるか、部品を交換する。その際は必ず、使用開始年月ラベル(【9 交換の目安】参照)に使用開始年月または交換年月を記入する。
- ②少なくとも1ヵ月に一度は、下のチェックリストに従ってより詳細に点検を行う。
- ③作業中に製品に異常を感じたら、直ちに作業を中止し、点検を行う。
- ④一度でも大きな衝撃を受けた製品は、外観に変化がなくても廃棄する。
- ⑤シグナルロープを使用している製品は、赤芯が見えたらすぐにロープを交換する。

〈製品点検チェックリスト〉

点検部分	点検項目	廃棄基準
ベルト	摩耗・擦り切れ	3mm以上あるもの ①
	切傷・焼損・溶融	3mm以上あるもの ②
	縫い付け部分	ゆるみのあるもの ③
	縫い糸	切断されているもの／摩耗・擦り切れの激しいもの ④
	先端止め金具	変形・脱落しているもの ⑤
	薬品・塗料等	薬品が付着し変色したもの／塗料が付着し硬化したもの ⑥
ロープ	切傷・焼損・溶融	1リード内に7ヤーン以上あるもの ⑦
	摩耗	摩耗して棒状になっているもの ⑧
	キック	キック(よじれてコブ状になること)しているもの ⑨
	シンブル	脱落しているもの
	ざつま編み込み部分	抜けているもの／ゆるんでいるもの ⑩
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着し変色したもの／塗料が付着し硬化したもの ⑪
	変形	形崩れしているもの／著しく縮んでいるもの ⑫
	赤芯露出(シグナルロープのみ)	赤芯が露出しているもの ⑬
金具類 (バックル D環 角環 8字環 フック 伸縮調節器)	変形	・変形が目視でわかるもの
		・バックルの締め具合の悪いもの
		・フックの外れ止め装置・安全装置の作動の悪いもの ⑭
	摩滅・傷	・伸縮調節器の作動が悪いもの
		・フック・バックル・伸縮調節器のリベットのカシメ部にガタ・変形のあるもの ⑮
		・深さ1mm以上の傷があるもの／わずかでもき裂があるもの ⑯
		・フック・バックル・伸縮調節器のリベットのカシメ部が $\frac{1}{2}$ 以上摩滅しているもの ⑰
		・バックルとベルトの接合部が摩耗し、ベルトがゆるむもの ⑱
		・フックのかぎ部の内側に少しでも傷のあるもの ⑲
		さび
回転部分	フック本体と回転部に0.8mm以上のすきまがあるもの ⑳	
バネ	フック・バックル・伸縮調節器のバネが折損・脱落しているもの／動きの悪いもの	
薬品・塗料等の付着	可動部・バネ等に塗料等が付着し、ふき取れないもの	
樹脂部品	樹脂部品が割れているもの ㉑	

(図は一例を示す)



8 部品交換

①下記の部品が廃棄基準にあたる場合

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| (1) 胴ベルト／バックル／先端止め | →胴ベルトを交換 |
| (2) 補助ベルト／D環／角環 | →補助ベルトを交換 |
| (3) 伸縮調節器／フック／8字環／ロープ | →ワークポジショニング用ロープを交換 |
| (4) ベルト通し | →ベルト通しを交換 |



警告

誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- ①交換の目安に従って部品交換を行う。
- ②上記以外の部品交換、その他改造・修理をしてはならない。
- ③製造元以外で、ランヤードのさつま編み込みや補助・胴ベルトの縫製をしてはならない。



注意

安全にお使いいただくためにお守りください

交換する部品は、同一メーカー(当社製品)のものを使用する。

9 交換の目安

- ①使い方によって異なるが、交換の目安としてはロープは2年、ロープ以外のものについては3年くらいをめどとする。
- ②点検要領に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取り替える。※廃棄方法については、各自治体にお問い合わせください。
- ③胴ベルトの裏側に取り付けられた使用開始年月ラベルに使用を開始した年月を必ず記入する。補助ベルトや他の部品等を取り替えたときも取り替え時の年月を必ず記入する。
- ④伸縮調節器に貼り付けられたシールに、ワークポジショニング用ロープの使用を開始した年月を必ず記入する。

使用開始年月日を必ずご記入ください

年 月 使用開始

必ず取扱説明書をお読みください

必ずご記入願います

使用開始年月

年 月

部品取替年月

年 月

年 月

(使用開始年月ラベル)

10 各部の強さ

項目	「JIS T 8165 : 2018」値	試験結果(※)
補助・胴ベルト	15.0kN 以上	30.0kN 以上
ロープ	19.0kN 以上	30.0kN 以上
フック	11.5kN 以上	15.0kN 以上
伸縮調節器	8.0kN 以上	13.0kN 以上
角環・D環・8字環	11.5kN 以上	20.0kN 以上
環類取付部	11.5kN 以上	15.0kN 以上
バックルによる連結部	8.0kN 以上	9.0kN 以上

(※)試験結果は新品時における社内試験値です。使用における摩耗・紫外線暴露などで経年劣化します。

お客様相談窓口

製品の使用方法等に関してご不明の点がありましたら、お買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。また、業務用途以外でお使いのお客様が、製品に起因する死亡や重大な怪我に至る事故にあわれたときは、お手数ですが下記までご連絡ください。

サンコー株式会社 本社

TEL : 06 (6394) 3541 (代表)

FAX : 06 (6395) 0041

発売元

ジェフコム株式会社

本社:東大阪市中石切町3-13-16 〒579-8014

製造元



サンコー株式会社

本社:大阪市淀川区新高1-14-7 〒532-0033

(この製品はジェフコム株式会社の委託によりサンコー株式会社が製造しました)